

今後10年間の財政見通し

10年後もこのまちで暮らすために

昨年12月市議会で「財政非常事態宣言の発令を求める決議」が提出されたことを受け、財政健全化は市民の命と暮らしを守り、持続可能なより良い未来につなげる手段であり、その実現のためには聖域を設けない改革や見直しが不可欠であると5月の施政方針演説で市長から申し上げました。（施策方針は本誌6月号でもお知らせしています。）

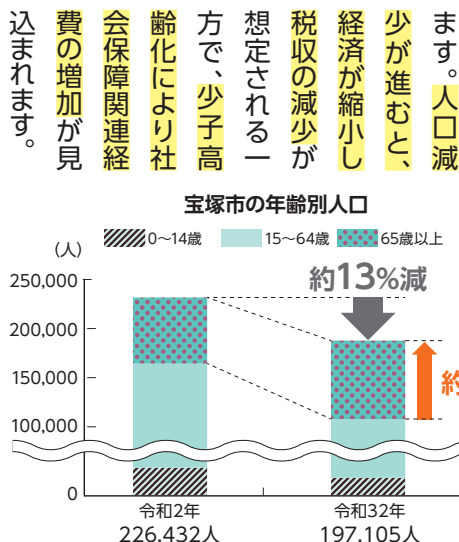
市では、現在の財政状況や財政健全化に向けた課題と市の取り組み方針を市民の皆さんにお伝えし、まちの課題を「私たち事」として一緒に考えていただけるよう、今後10年間の財政見通しを作成しました。今回は、その主な内容をお伝えします。



これから宝塚市はどうなる？

1 人口減少・少子高齢化

本市の人口は、令和2年から令和32年の間に約13%減少し、65歳以上の高齢者の割合が約24%増加すると見られています。



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（2023年推計）

2 建物や道路の老朽化

市には、学校や公共施設などの建物、道路や水道管などのインフラが多くあります。これらの維持・更新には、多額の費用が必要です。この維持更新費用の財源は、国や県からの補助金などの他に、借金（地方債）を発行し資金を調達していくので、地方債発行額も増加する見込みです。

直面する2大施設の建設

1 新ごみ処理施設の建設

ごみ処理施設の築年数は30年以上、市立病院の築年数は40年以上経過し、老朽化が進んでいるため建て替えが必要です。

事業費 約510億円

総事業費は、建築資材の価格高騰などにより当初から約42億円増額しています。今後、事業費の財源は、国の交付金や地方債、都市計画税や貯金（基金）を活用することとしています。



2 新病院の建設

事業費（試算） 約397億円

新病院の建設は、市の財政状況に大きな影響を及ぼします。

市民からの多額のご寄附により市の負担は大幅に軽減しましたが、一定の負担は残っています。





貯金はいくら必要？



- A.** 本市の場合は、約48.7億円です。
これは財政規律^{※1}で、標準財政規模^{※2}の10%以上の財政調整基金残高を確保することを定めているため、仮に残高が10%を下回った場合、おおむね3年以内に戻す必要があります。

※1 持続可能な財政運営のために市が定めたルール。
※2 自治体が標準的な状態で通常収入が見込まれる経常的一般財源の規模を示すもの。令和6年度は約487億円。

貯金を残しておかないと
大変なことに

インフラ整備や市民サービス向上のための貯金だけでなく、大規模災害や景気変動に備えた計画的な貯金(財政調整基金)も重要です。
必要な時にお金がない、という事態を避けるため、財政調整基金の残高は一定の基準を確保する必要があります。

これからこのまちで
暮らすために

市の全591事業を、その必要性や有効性などの観点から点検しました。植木ゴミ処分手数料の増額改定といった受益者負担の見直しや、各種協議会からの退会による会費の削減など、歳入確保や歳出抑制に向けた取り組みを行っています。
市民の皆さんが安心して暮らしていけるよう、今後も引き続き全事業の整理を進め、収支改善に取り組めます。

このままだと、10年後には…

令和5年度決算の収支は、財政調整基金を取り崩したことで11.8億円の黒字でした。しかし、基金の取り崩しを除いた実質的な収支だけを見ると、4年ぶりの赤字が生じています。今のような赤字が続くと、10年後には累積赤字が約63.2億円になる見込みです。
予算のやりくりが厳しくなれば、今ある市民サービスを継続できなくなったり、急に中止せざるを得なくなったりするリスクが生じます。

250億円の寄附で財政は安泰？



Q.何に使われるの？

- A.** 新病院建設のために使います。それ以外の用途には使えません。

Q.市の財政は楽になったのでは？

- A.** 10年後の累積赤字見込みが113億円から63億円に減ったものの、まだ収支改善を図る必要があります。

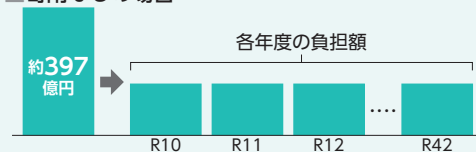
Q.なぜ赤字が250億円減らないの？

- A.** 新病院建設の事業費は約397億円であり、250億円を使っても約147億円の負担が残るため、毎年の赤字がなくなるわけではありません。

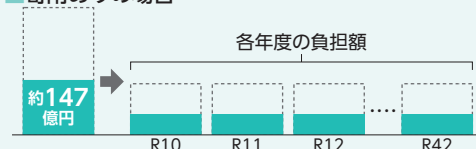
Q.じゃあ、負担がどう軽減されるの？

- A.** 寄附金を工事費に使うと、残りの約147億円については、病院が借金(地方債)を発行し、病院と市が半分ずつ返済します。寄附金により、病院も市も1年あたりの負担額が大きく軽減されます。

■寄附なしの場合

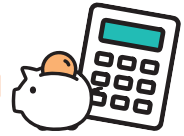


■寄附ありの場合



そもそも!

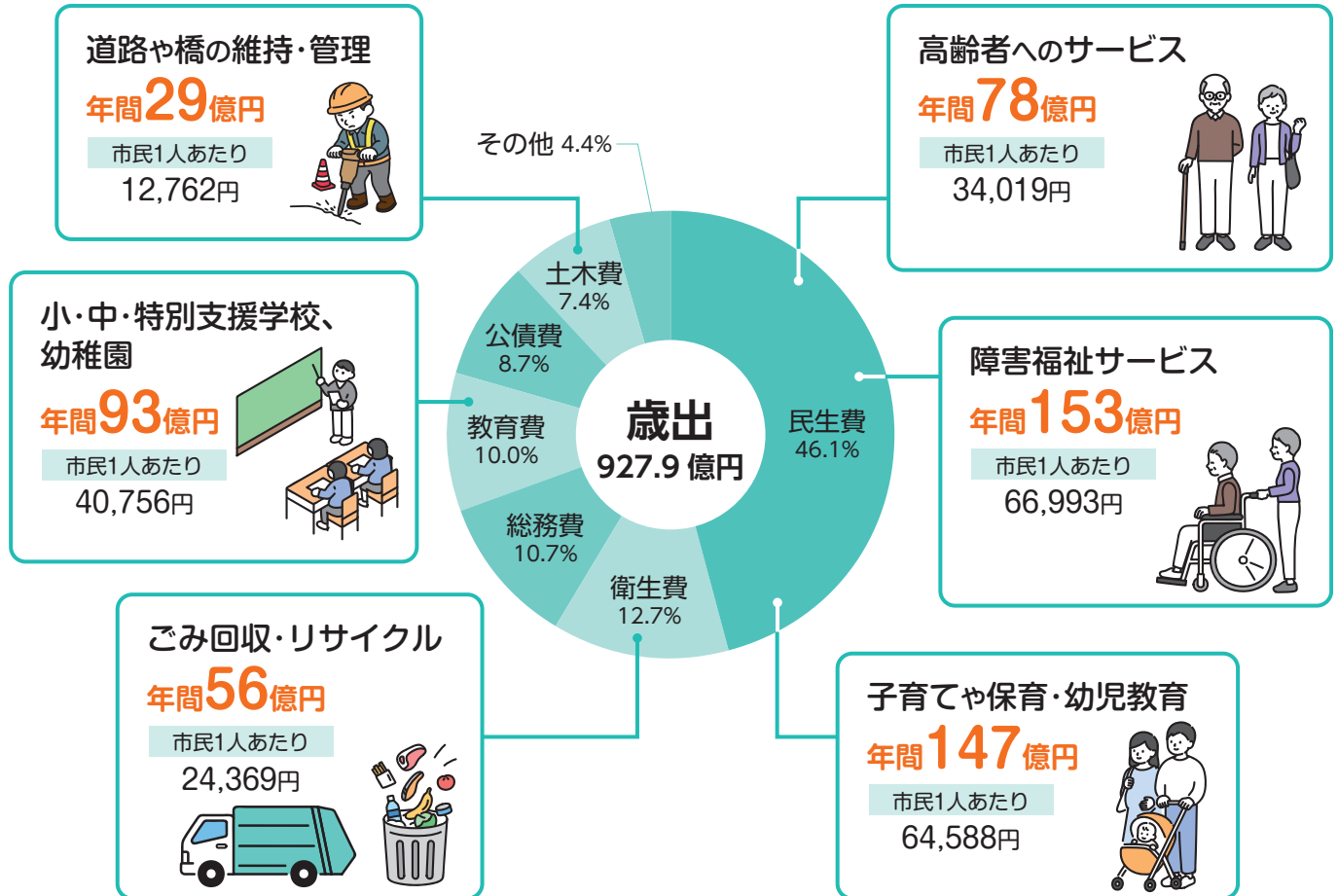
気になる財政のコト



税金はどんなことに使われているの?

皆さんの身の回りのどんなことにお金を使っているか、いくつかご紹介します。

※数値は令和5年度決算に基づいた概算値です。



どうして「民生費」が多いの?

民生費は、少子高齢化などの影響により全国的に近年増加傾向にあります。本市や近隣市も同様の状況ですが、全国の類似団体と比べると構成比は多くなっています。歳出の大部分を占めることと、国や県の制度にプラスして市税などの財源を活用し実施している事業も多いことから、全体を見てバランスよく適正に財源を配分していきます。

宝塚市		尼崎市		西宮市		芦屋市		伊丹市		川西市		三田市	
決算額	割合	決算額	割合	決算額	割合	決算額	割合	決算額	割合	決算額	割合	決算額	割合
429.6	46.9%	1200.3	53.5%	967.4	49.0%	171.4	39.3%	415.9	47.5%	270.4	43.9%	150.9	36.4%

※金額は令和5年度決算額 ※割合は普通会計に占める民生費の割合 (単位:億円)

もりりんの宝塚ナビゲート「もりナビ」を配信

上記のような財政に関することや、市政に関する素朴な疑問などに森市長が動画でお答えします!

YouTubeとInstagramで発信中

問 広報課(☎77・2002 FAX74・6903)



YouTube



Instagram

令和6年度下半期の財政状況

法令の規定に基づき、令和6年度下半期の財政状況をお知らせします。物価高騰に伴う支援や病院建設への寄附などの補正予算を加え、最終予算額(一般会計+特別会計)は以下のとおりとなりました。



なお、令和6年度決算は12月ごろにお知らせ予定です。

.....

$$\text{最終予算額 } 1,742\text{億}9,608\text{万円} = \text{上半期予算額 } 1,424\text{億}2,296\text{万円} + \text{下半期補正予算額 } 318\text{億}7,312\text{万円}$$

補正した主な内容と補正額

病院建設にかかる寄附金の基金への積立、物価高騰の影響を受ける一部対象世帯への給付や定額減税による調整給付、国の補正予算に対応して小・中学校の整備費用を計上したことなどにより、一般会計で308億4,321万円の増額となりました。

・市立病院建設基金積立金	250億100万円
・小学校施設整備事業 建物保全	13億6,510万円
・価格高騰重点支援給付金給付事業	6億6,822万円
・施設型等給付事業	6億3,829万円
・中学校施設整備事業 建物保全	5億7,380万円

市の財産・貯金・借金

令和6年度末現在

財産(庁舎、学校、公園など)



土地：573万636㎡
建物：延べ床面積で62万1,758㎡

貯金(各種基金と出資金など)



一般会計と特別会計の合計
497億393万円
※市民1人あたり約21.9万円

借金(市債の残高)



一般会計と特別会計の合計
682億6,742万円
※市民1人あたり約30万円

.....

市の予算は、医療や教育など基礎的な市民サービスを行うための一般会計と、市営霊園や介護保険など特定の事業の収支を明確にするため独立させた特別会計で構成しています。

市民の暮らしを守り、持続可能なより良い未来につなげるために

市民サービスを今後も継続して提供できるよう、市は収支改善に取り組んでいきますが、その実現には市民の皆さんのご理解とご協力が不可欠です。そのため、市民の皆さんと市長の対話の場(6面参照)を設けるほか、市政に関するパブリックコメント(20面参照)を実施しますので、ぜひご意見をお寄せください。

財政見通しは市HPに掲載していますので、ご覧ください。



財政見通し

問 財政見通しについては財政課(☎77・2022 FAX72・1419)

収支改善に向けた取り組みについては業務改革推進課(☎77・4571 FAX72・1419)